

2021 年度（令和 3 年度）

事業報告

自 2021 年(令和 3 年) 4 月 1 日
至 2022 年(令和 4 年) 3 月 31 日



一般財団法人 日本生物科学研究所
NIBS NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE

1. 事業の概要と特筆すべき成果

2021年度は、事業計画に基づき産業動物の衛生問題対策、食の安全性を確保する畜水産物の生産及び伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応じて貢献すべき事業分野の基礎的及び応用的研究を実施した。また、当所で蓄積されてきた研究成果・技術は、日生研株式会社の諸活動ならびに広く社会の産業動物の衛生問題・環境を改善するための技術及び材料提供に活かされ、さらに病性鑑定ならびに国内外関係者の研修・講習会などに積極的に活用された。

2021年度は、日生研株式会社を通じて2019年に申請した2製剤が調査会及び部会あるいは食品安全委員会を経て、最終差し替えの段階となっている。加えて2021年度は新たに2製剤について安全性試験（GLP試験）が終了し、臨床試験（GCP試験）の準備段階にはいった。

令和3年春の叙勲にて、笹川千尋所長が瑞宝中綬章を受章した。

2. 研究課題及び関連業務

2021年度の研究課題総数は20課題で、その内訳は、動物用生物学的製剤（ワクチン）として製造販売承認申請中の製品化課題及び製品化を目指す課題13題、基礎研究課題7題、その他業務を実施した。

3. 病性鑑定

野外農場における家畜動物の感染症動向の情報収集及び会社製品の販売促進等に資する営業支援として、野外農場からの病性鑑定依頼を受け入れ、検査部と研究部が連携して合計194件の病性鑑定（豚105件、鶏75件、その他14件）を実施し報告書を提出した。

4. 抗体検査その他

- 1) 検査部では、会社製品の販売促進に関連した営業支援として、野外農場の抗体検査を合計889件（豚415件、鶏474件）、合計16,867検体（豚10,953検体、鶏5,914検体）を実施した。
- 2) 日生研株式会社実験動物部のSPF鶏清浄化プロジェクトチームに研究員1名、研究アドバイザー2名及び技術員1名を参加させ、鶏貧血ウイルス（CAV）の抗体検査及びPCR検査を実施した。またSPF鶏清浄化プロジェクトの月1回の進捗会議に参加させた。

5. 研究成果の発表

- 1) 研究論文 5 報を国際英文誌（査読あり）に発表した。
- 2) 研究成果 4 題を学会及び研究会に発表した。

6. 学会及び研究会活動

1) 学会及び研究会

当所の研究員は、2021 年 4 月 1 日現在、15 学会に延べ 50 名、4 研究会に延べ 20 名が所属している。また、賛助会員あるいは団体会員として 16 の学会・研究会等の運営に協力した。

2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況・成果を報告する第一研究会を開催した。
- (2) 外部から専門家を講師として招待し、最新の研究についてオンライン講演をしていただいた。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的実施した。

7. 研修及び技術協力等

- 1) 研究員等の知識・技術向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会等を Web 又は書面による参加を延べ 20 名が受講した。
- 2) 研究所など延べ 2 機関へ微生物株 2 種類 55 株の研究材料を譲渡した。
- 3) 研究所など延べ 2 機関から微生物株 2 種類 3 株の研究材料を譲受した。

8. 講師等の派遣

- 3 機関で開催された業績発表会に審査員を派遣した。

9. 外部組織・委員会・学会等の役員等

20 機関の外部組織・委員会・学会等の理事、評議員、委員、専門家としてそれらの運営等に協力した。

10. 学術広報

- 1) 日生研たよりを無償で、国内 744 か所、国外 22 か所、合計 766 か所の関係機関と個人へ 4 回、各回 901 部を配布した。
- 2) 日生研たよりの事業内容の広報、情報公開をホームページにより積極的に行った。

11. 特許

- 1) 国内の特許出願 1 件「プライマーセット、並びにプライマーセットを用いた核酸増幅方法、細菌の同定方法、及び罹患ブタの細菌感染診断方法」について審査請求をした。
- 2) 国際出願（PCT 出願）1 件「豚流行性下痢の予防又は治療方法、ワクチン及びワクチンキット」について、移行手続きを行った米国及びメキシコで特許登録がされた。またカナダで審査請求をし、台湾では再審査請求をした。

12. 日生研奨励賞及び日生研功労賞の授与

- 1) 日生研奨励賞
選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。
- 2) 日生研功労賞
選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。

13. 動物実験試験数

動物の愛護及び管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験等及び実験動物生産の管理に関する規程」に沿い、19 件の実験を行った。